【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第１区分
【発行日】平成19年10月4日(2007.10.4)

【公開番号】特開2006-58190(P2006-58190A)
【公開日】平成18年3月2日(2006.3.2)
【年通号数】公開・登録公報2006-009
【出願番号】特願2004-241642(P2004-241642)
【国際特許分類】
Ｇ０１Ｃ　15/02　(2006.01)
Ｇ０１Ｃ　5/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０１Ｃ　15/02
Ｇ０１Ｃ　5/00　Ｍ

【手続補正書】
【提出日】平成19年8月17日(2007.8.17)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
鉛直機構に支持される鏡筒と、
該鏡筒に設けられレーザビームを発生するレーザ光源と、
該レーザ光源の外周に設けられ球面を有するキャップと、
該キャップ球面と接する球面を有し前記鏡筒の一端に埋設されたスリーブと、
該スリーブと螺合し前記レーザ光源の外周に端部が接触する調整部材とを備え、
該調整部材と前記キャップとの間に弾性部材を設け、前記レーザ光源を前記スリーブに押圧することを特徴とするレーザ墨出し器。
【請求項２】
前記調整部材は、前記弾性部材の抜け止め及び前記レーザ光源のレーザビームの照射位置を調整可能にしたネジで構成されることを特徴とする請求項１記載のレーザ墨出し器。
【請求項３】
前記弾性部材は、前記調整部材を前記鏡筒の長手方向に付勢することを特徴とする請求項１又は２記載のレーザ墨出し器。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００８】
上記目的は、鉛直機構に支持される鏡筒と、該鏡筒に設けられレーザビームを発生するレーザ光源と、該レーザ光源の外周に設けられ球面を有するキャップと、該キャップ球面と接する球面を有し前記鏡筒の一端に埋設されたスリーブと、該スリーブと螺合し前記レーザ光源の外周に端部が接触する調整部材とを備え、該調整部材と前記キャップとの間に弾性部材を設け、前記レーザ光源を前記スリーブに押圧することにより達成できる。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００９】
　また、前記調整部材を、前記弾性部材の抜け止め及び前記レーザ光源のレーザビームの照射位置を調整可能にしたネジで構成してもよい。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１０】
　また、前記弾性部材は、前記調整部材を前記鏡筒の長手方向に付勢するようにしてもよい。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１１】
　請求項１記載の発明によれば、弾性部材がレーザ光源を押圧することにより、レーザ光源がスリーブの球面に沿って移動することが可能となり、レーザ墨出し器を大型化することなく地墨点を容易に調整できると共に、調整部材の位置決めを弾性部材で行えるので調整を容易にすることができる。
【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１２】
　請求項２の発明によれば、調整ネジが弾性部材の抜け止めをするため、別に抜け止め部材を設ける必要がなく、また、調整ネジを回すだけでレーザ光源のレーザビームの照射位置を簡単に調整することができる。
【手続補正７】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１３】
　請求項３の発明によれば、弾性部材が調整部材を鏡筒の長手方向に付勢するため、レーザビームの照射位置を調整した後に調整部材を固定する必要がない。